

## 循環型社会に向けて

総務産業常任委員会



昭和電工(株)

総務産業常任委員会は11月14日(月)・15日(火)に京浜地区の視察を行った。14日は川崎市の昭和電工(株)を訪問し、プラスチックケミカルリサイクル事業について説明を受けた。

ここでは、家庭や企業等から排出される使用済みプラスチック(資源ゴミ)を提携先の自治体等から受け入れ、それを原料としてアンモニア、炭酸製品を製造し、販売を行っている。この工場で作られた従来品と同等のアンモニアは、主に火力発電で発生する大気汚染物質の脱硝用、合成繊維

や樹脂の原料、肥料用に利用されている。

化石燃料の消費を抑え、製造工程で発生する二酸化炭素等の副産物を再資源化できる製造方法を取り入れ、従来の製法に比べ、環境負荷を大幅に低減している。

私達の家庭から出る資源ゴミの有効活用の意義を改めて確認できた。

15日は藤沢市の藤沢サステイナブルスマートタウンを視察した。

ここは松下電器の工場跡地で、先進的な取組を進めるパートナー企業と藤沢市の官民一体の共同プロジェクトとして、千世帯もの家族の営みが続く、リアルなスマートタウンである。

技術先行のインフラ起点ではなく、住民一人一人の暮らし起点の街づくりを実現する新しい発想のスマートタウンであった。

(朝倉 国勝)

## 多世代共生の複合施設

社会文教常任委員会



とやまこどもプラザ

社会文教常任委員会は10月19日(水)・20日(木)に、複合型施設について学ぶため、富山県富山市「とやまこどもプラザ」と石川県白山市「社会福祉法人佛子園 B.s行善寺」を訪問した。

坂城町では、老人福祉センターと保健センターを統合した新たな複合施設の整備を計画している。どの様な形が望ましいかという視点で、利用者の生活スタイルを踏まえた施設の視察研修を行った。

「とやまこどもプラザ」では、子ども図書館と子育て支援センターがワンフロアで一体となっており、また飲食店が併設されていることで様々な年代の人が利用しやすい施設となっている。

行善寺は、もともと障がい者施設としても運営されていたが、現在は「社会福祉法人佛子園 B.s行善寺」として未就園児から高齢者まで多世代が広く様々なサービスを受けられ、地域住民の就労にも一役買う施設となっている。

地方創生を実現するため、全国各地でこのような取り組みを展開しており、多世代共生を実現すべく「ごちゃまぜ」を合言葉に活動を行っていることを説明を受けた。

今回の視察を終え、様々なサービスが集約された施設の利便性と重要性を強く感じる事ができた。新しいものを取り入れ進化する姿勢を持ち続けたいと思う。

(大日向進也)